第 2017-22 号

恵みと真理のニュース

2017 年 5 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私たちの家庭を大きく広い愛で抱いてくださり、主を愛し表して誇る家庭になるようにしてくださった主を賛美します

私は子供の時に友達をついて一回教会に行ってから怖いときや大変な事があるときにはイエス様を探して神様に祈りました。すると心が平安になりました。しかし、成長せるまで教会は通わなかったです。家庭がイエス様を信じない家庭であり、周りで神様に礼拝を捧げて信仰生活をするように導く人がいなかったからです。それで、イエス様を信じない人にに福音を伝えて教会に来て説教を聴くように忍耐を持って面倒見てくれる伝道者の役割がとても大事であることをよく知っています。
結婚して子供を産んで旦那の職場の同僚に伝道され小さい教会に通いました。しかし、設立されたばかりで教会の聖徒の中で言い争う姿を見て失望して教会を行かなかったです。その時にはまだイエスキリストの愛と救いの恵みと真理を悟らなくて救いの確信もなかったです。
その後、神様の恵みと摂理で恵みと真理教会に属して信仰生活を始めました。イエスキリストを信じる聖徒になり、救いの感激と礼拝の喜びを知るようになりました。アンサン聖殿が建てられる前はアンヤンまで行って礼拝を捧げました。家と距離が離れてもそんなに遠く思わないほど説教に恵みを受けて聖霊で満たされました。アンサンに美しい聖殿が建てられ喜ぶ心で礼拝し教会学校の幼稚部の教師として奉仕しました。
教会中心で生活をして主の事に力を尽くして神様に祈って答えられる楽しさを深く感じました。私は家を持つように祈りながら努力しました。神様は私たちが願っていた家よりもっと立派な家をくださいました。息子を授かるため祈ると神様は双子の息子をくださいました。
どころが、豊かな神様の恵みを受けて体験をして私が急に体の調子が悪くなって職場で仕事が忙しくなり礼拝をするのに疎かになって信仰と熱情が冷めました。しばらく世に戻って伝道するのもおろそかになって瞬く間に区域が崩れてしまいました。教区長と他の区域長達が切ないと思って私のため祈ってくださいました。彼らの愛と祈りを受けて神様が憐れんでくださって私の信仰と愛の熱情が回復しました。
私は新たな心と覚悟で区域を仕えて教会学校の幼年部の教師で再び奉仕し始めました。教会で受けた職分に従順し忠誠し、子供たちは幼い頃からイエス様を信じて神様を畏れて委ねながら愛する子供になるように信仰教育に力を使いました。すると、神様は私の信仰をもっと堅くしてくださり、4人の子供達も教会学校で熱心に礼拝を捧げて聖歌隊で奉仕する真実な子供になるように導いてくださいました。私は礼拝を捧げることに神様に感謝する涙を流しました。御言葉を聴いて賛美することに"天のお父様感謝します。感謝します。と告白をしました。
神様から受けた愛がとても大きくて限りなく感謝するのに"どうするべきですか" 私の質問に牧師と伝道士はその心を伝道を通して神様に表しなさいとしました。しかし、私は営業の仕事をしてお金を稼ぐため忙しくて礼拝と主日教会の奉仕以外にイエス様を信じない人々を探して伝道して区域を回復させるのは大変でした。惜しいけれども強い決心をして区域をよく仕えて伝道をするため職場を辞めました。
区域の聖徒のほとんどが職場に通っていて区域礼拝を捧げることから難しかったです。私は落胆しなくて脳出血で倒れて病院に入院している執事さんに出会って二人で区域礼拝を捧げました。そして、今まで教会を離れていた人々を探しました。一人でも区域礼拝を休まずに捧げて切ない心で神様の助けを仰ぎました。すると、神様は御言葉の恵みを求めている姉妹を与えてくださり、様々な方法で区域人数が増え区域が活性化するようにしてくださいました。疲れて大変な時もありましたが、信仰が成長する姉妹達の姿を見ると私には大きい慰めと励ましになりました。
イエス様を信じない家族は"この時代で旦那一人で稼いで豊かな生活をするのが出来るのか。" さらにイエス様を信じる親戚まで"あなただけ教会に通っているのか？他の人は金を稼ぎながらも教会によく通っているよ。あなただけ特別だね。" と非難しました。悲しくて耐えられない時もありましたが、そのときことに説教を通して恵みを受けて聖霊の慰められ伝道の実りを得って非難を勝つことが出来ました。そして、首区域長の職分を受けてセミナで伝道賞も受けました。
良い神様は恵みの上に恵みを与えてくださいました。旦那の信仰が堅くなるようにして案手執事に立ってくださって夫婦が共に祈って主の事にもっと力を尽くすようにしてくださいました。そして、教会を仕える幸せが充満になりました。旦那が地方で働いたので行く所に聖殿が建てられていて旦那が平日礼拝と祈り会に休まずに当会長の牧師の説教を聴いて礼拝中心の生活をするようにしてくださってその恵みに感謝します。
また、娘二人と息子二人の四人子供達がみんな健康で育てられ私と共に教会学校で教師として奉仕する恵みを与えてくださいました。双子の息子たちは空軍に入隊して無事に教育の訓練を終えて今は家の近くにあるスワンで共に服務しています。昨年は私の長い祈りに神様が答えてくださって93歳になる母がイエス様を受け入れました。そして私は今年の春に区域長セミナで伝道賞を受けました。すべてが神様の恵みです。
"言っておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。 "（ルカによる福音書18：8）主がくださったこの御言葉を心に込めて相変わらず主だけを畏れて愛する生活をします。日増しに区域がリバイバルをして、家庭が礼拝中心、教会中心、御言葉中心で生活し主の前で立つ日大きく褒められる信仰の家庭になるのを願えながら神様に感謝と賛美をささげます。

［信仰コラム］ 聖霊洗礼と方言

" 我は聖霊を信ず "（使徒信条）

聖霊洗礼と方言の関係を知るためには新約聖書の使徒言行録を調べてみるべきです。使徒言行録には聖霊洗礼を受ける場面が 5 回記録されています。その 5 回の事例は地域と民族、聖霊洗礼を受ける人の数と状況そして表れた現象が多様であるが共通要素があります。第一は使徒言行録 2 章に記録された五旬節の聖霊降臨場面です。第二は、使徒言行録 8 章に記録されたサマリアの人々が聖霊を受ける場面です。第三は、使徒言行録 9 章に記録されたパウロが聖霊を受ける場面です。第四は、使徒言行録 10 章に記録されたコルネリオの家に集まった人々が聖霊を受ける場面です。第五は、使徒言行録 19 章に記録されたエペソ教人達が聖霊を受ける場面です。
学者の中では聖霊洗礼を受けるこの 5 回の事例に対して福音が広く述べ伝えられなかった時代に宣教のため行われた例外的な事件だと話します。しかし、信者が聖霊を受けて方言を話した事件は一回で終わったことではありません。エルサレムで 120 人が聖霊で充満になり他国の言葉で話し出した時を基準として約 5 年後にパウロが聖霊洗礼を受けました。コルネリオの家の人々が聖霊を受けて方言を話したのは約 10 年後のことであります。コリント教会は 20 年後のことです。エペソ教人達が聖霊を受けて方言を話したのは 23 年の時間が絶ってからです。今日も聖霊を受けて方言を話す現象は続いています。
総合的に整理してみると、このように説明することができます。"聖霊洗礼"という用語は聖霊として生れ変わることと聖霊で充満になること２つの方面に使われます。聖霊として生まれ変わる同時に聖霊で充満になる場合もあり得るが、聖霊として生まれ変わったとして全て聖霊充満な状態ではありません。従って、信者達に"聖霊で洗礼を受けてください。"と言うのは"聖霊充満を受けてください。"という意味になります。そして聖霊洗礼を経験した信者に"重ねて聖霊充満を受けてください。"ということは話すことができても"重ねて聖霊洗礼を受けてください。"という言葉は適切ではありません。
先入観や偏見を捨てて調べてみると聖霊洗礼を受ける全ての場面で方言が普遍的な証拠のようになっているという事実を否定することはできません。すると、方言を話せない人々は果たして聖霊洗礼を受けられなかったのかという重要な質問が提起されます。また、聖霊洗礼の主な目的である福音伝播を熱心にして効果的な結実を結んでいる人だとしても方言を話せないから聖霊洗礼を受けられなかったと断定することができるのかという質問もできます。
使徒言行録に記録された聖霊洗礼を受ける五つの事例で 3 回は確に聖霊を受ける時に方言を話したという証拠があり、他の場合にも方言を話したことを否定できない状況的な証拠があります。しかし、聖霊洗礼を受けると必ず方言を話すようになると断定することはできません。聖霊を受ける時に必ず方言が随伴されるべきであったら聖霊様が聖書記者達を通じてその部分を抜かずに明示するようになさったでしょう。方言を話すことは各個人の個性や自我意識と密接な関係があります。個性と自我がとても強くて自分の固執を捨てることができないので方言で話すのを自ら塞いでいる人がいます。方言に対する否定的な先入観、神学的偏見によって方言で話すのを自ら塞いでいる人もいます。聖霊洗礼を受けても方言で話すことができない人がいるのではなくしない人がいます。
方言を"聖霊洗礼の初の証拠"とするよりは聖霊洗礼を受ける時に最も多く表れる"普遍的な証拠"だという表現が適切です。そして最も重要なことは神様が聖徒達に聖霊洗礼を与えてくださる主な目的が"福音伝播"だという事実を肝に銘じるべきです。皆さんは聖霊洗礼を受け方言でお祈りすることができるよう願いながら求めて全て方言で話すことができるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

恵みと愛、敬い畏れと恭敬

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

私たちが使う言葉の中に一番美しくて感動的で貴重な言葉は恵みという言葉と愛というのです。私たちが感じて所有するようになる幸せの大きさは恵みと愛に対する体験に比例します。 人が体験することができる一番崇高な愛と恵みは神様の恵みと愛であり次はご両親の恵みと愛です。 このような恵みと愛を悟って神様を敬い畏れて親を敬いながら生きて行くのが人に許諾された特権で神聖な義務で人らしく生きて行く道理です。 今日は神様を敬い畏れて親を敬うことに対してよく見ます。

第一、神様を敬い畏れるに対してよく見ます。

聖書に記録されるのを “主を恐れることは知識のはじめである、愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。主を恐れることは知恵のもとである、”（箴言 1:7, 9:10） と言いました。 敬い畏れという話は敬いながら恐れることを意味します。神様を敬い畏れようとすれば神様に対する知識がなければなりません。 人類の先祖アダムが堕落した理油でその子孫は罪性を持って生まれるようになりました。 そしてますます神様に対して正しい認識を喪失するようになりました。遂に被造物を仕える偶像崇拝と転落しました。このような人生のために神様が選んだ少数の人々に神様を啓示なさいました。 大洪水の以前の代表的な人物はアベル、セツ、エノック、ノアです。 大洪水の以後にはアブラハム、イサク、ヤゴブです。 そしてモセとイスラエル子孫です。 特にイスラエル子孫の中で選択した予言者を通じて神様がなさったこととなさることそして神様の属性に対して啓示なさって予言させました。 その予言の核心がメシア すなわちキリストが世の中へいらっしゃって罪人を救われるという消息です。
神様の決めた時にイエスキリストが世の中へいらっしゃって親しく人生のために教えて治療して将来に近付くことをおっしゃいました。 そして十字架に釘つけられる事ができなくあがないの死を死んだし復活昇天なさいました。 イエス様の呼び使われた使徒は聖霊の感動を着てイエス様がおっしゃったお話と行ったことを記録しました。 聖霊がくださるメッセージを記録しました。 予言者と使徒を通じて記録された神様のお話を今日は印刷術の発達でひとつの聖書で私たちが持つことができるようになりました。
聖書は読む人々にイエスキリストにあって現われた神様の恵みと愛が分からせてこれを享受するようにします。 聖書は人間を向けた神様の恵みとラブストーリーでいっぱいになります。ところで聖書で神様の恵みと愛を見つけることができない人がいます。 聖書を悟った心で教える説教をきいても神様の恵みと愛を感じることができない人がいます。 返って神様の恵みと愛を伝える人を憎んで迫害を加える人もいます。

イエス様は神様の恵みとラブストーリーをきいて無感動するとか拒否する人々に対してその理由を次のように指摘しました。 “こうしてイザヤの言った預言が、彼らの上に成就したのである。『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』。”（マタイによる福音書 13:14,15). 福音をきくことで心を直して神様の驚くべきな恵みと愛に感激する人は全く幸いである人です。 イエスキリストにあって現われた神様の恵みと愛によって感謝する人は神様を敬い畏れるようになります。 聖なる恐ろしいことで神様を仕えるようになります。
“神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。”（ヨハネによる福音書 3:16,17). このお言葉に神様の恵みと愛の実際が完全に啓示されています。 神様の怒りの下にあって死ねば地獄の刑罰に処するようになる私たちを救われしようとイエスキリストをつかわされた神様の恵みと愛そして私たちの罪をあがないしようと十字架に釘つけられる事ができなくたまらなくてイエス様の恵みと愛は筆舌にすべて形言することができないです。 私たちが神様を礼拝して福音を伝えながら献身することは神様の恵みと愛に対する悟りと感謝から始まったことではなければなりません。

第二、親を敬うに対してよく見ます。

親を敬うことは神様が下さった法道で戒めです。神様はすべての人が守って行わなければならない本分になる十戒めをくださったが第一戒めから四番目の戒めまでは人間が神様との関係で守らなければならない戒めです。 五番目の戒めから十番目の戒めまでは人間関係の戒めです。人間関係の戒めの中にその第一が “あなたの親を敬いなさい。” です。 親の恭敬にはどんな条件が付加していないです。 親であるから敬わなければならないという意味です。 親を敬う人には神様がくださる福が約束されています。 今日の本文には “あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、 「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。”（エペソ人への手紙 6:2,3） としました。
ルツ記に見れば姑を敬うことで福を受けた女人の話が出ます。 ベッドレヘムに住んだエルリメルレックとナオミが二人の息子を連れて凶年を避けるために故郷を離れ発ってモアブ地に行きました。 その所でエルリメルレックが死にました。 二人の息子マルロンとギリョンはモアブ女人ルッとオルバをそれぞれ妻に迎え入れました。 ところでやや過ぎて二人の息子さえ死にました。 ベッドレヘムに豊年になったといううわさをきいたナオミは故郷に帰ることに決心しました。 ナオミは嫁であるルッとオルバに実家に帰りなさいと勧勉しました。 オルバはナオミを離れ去ったがルッは遂に姑と一緒にベッドレヘムに来ました。 ルッは姑をよく奉養しようと秋収の時に畑に出て穂を与えたがあいにく富裕な親族であるボアスの畑に行くようになりました。 ボアスは孝行が手厚いルッに対するうわさをきいたから好感を持って穂を十分に拾うように気配りしてくれました。

その話をきいたナオミはルッをボアスと結婚させようと決心しました。 ルッは見すぼらしいやもめに過ぎなかったが姑に対する愛と献身を恵まれるようになさった神様の恩寵でボアスと結婚して子を生んで幸せを享受するようになりました。 ルッはダビテ王の曽祖母になりました。“あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう ” （エペソ人への手紙 6:2,3） と言うお言葉がルッにそのまま適用されました。
親を敬う正しい姿勢に対してよく見ます。 親の恭敬は決心して実践しなければなりません。本文に “息子よ あなたがたの親を主にあって従順しなさいこれがよいのだ” と言いました。 親の要求する事が神様のお話にさからって行くのではないなら従順しなければなりません。 そんなにすれば神様から正しいという認定を受けます。 そして本文には “あなたがたの父と母を敬いなさい” しました。 恭敬は丁寧にして尊敬する態度を言います。 親は子に最高の点数をくださっていつも息子の便に止まります。 このような親を息子が尊敬するのが適当です。 他のものはすべて折っておいて親が子を生んで養育した事だけでも尊敬されるのに当然です。母は子を懐任した十月の間に大変で不便な体で過ごしている途中 産むによる危険と極甚な陣痛を経験しなければならないし生んだ後には 濡れた眠ろうぞ着替えて寝かしながら苦労します。 生んでくださった親だけではなく育ててくださった親の恵みと愛も驚くべきで偉大です。 親の恵みと愛は返すあてがないです。 これを思ったら子も当たり前そうしなければならないでしょう 犠牲ない恭敬は真の恭敬だと言えないです。
親に喜びと自慢の種を持つことができさせなければなりません。 子が職場と教会で愛と尊敬の対象になって大事になることが親には喜びと自慢の種になります。 親が年歳が多くなればすべきことがなくてたいくつになります。 ご両親がやりがいを感じることができるように面倒を見て差し上げなければなりません。 イエス様を信じない親は専心全力で伝道してクリスチャンにならせなければなりません。 イエス様を信じる親は礼拝と生徒の集まりと奉仕活動と神様に差し上げる事に参加するように力をつくしてお手伝いしなければなりません。 神様の前に立つ日に誉められて賞を受けるようにお手伝いしなければなりません。

神様を敬い畏れて親を敬う抉る自分が福を受けて家庭が幸せになって良い社会を成す原理です。すべての人はすべての人類のために至極な恵みと愛を施す神様を敬い畏れなければならないし、子のために恵みと愛で養育する親を敬わなければなりません。 聖徒の皆さんは心と旨と性分と命をつくして神様を敬い畏れて、主にあって親を力をつくして敬いながら生きて行くように願いします。